

令和7（2025）年10月22日【水】

於 栃木県公館 大会議室

第190回 栃木県都市計画審議会

会 議 録

1. 開催日 令和7（2025）年10月22日（水）

2. 開催場所 栃木県公館 大会議室

3. 出席委員 14名

金原委員、大森委員、青木委員、藤田委員(代)、
橋本委員(代)、菅家委員(代)、杉本委員(代)、早川委員、
小菅委員、神谷委員、螺良委員、木村委員、野澤委員、
岡村委員

※(代)は代理出席であり、2号委員（関係行政機関の職員）については栃木県都市計画審議会規程により代理出席が認められております。

午後 1 時 4 0 分 開会

○事務局 それでは、ただいまから第 190 回栃木県都市計画審議会を開会いたします。

はじめに、委員に異動がございましたので、新任委員を御紹介いたします。

2 号委員に、農林水産省関東農政局長 菅家秀人様が任命されております。

新たに委員となられた方は、以上でございます。

続きまして、開会にあたり、県を代表して小野県土整備部長から御挨拶申し上げます。

○小野県土整備部長 皆さんこんにちは。県土整備部長の小野でございます。

第 190 回都市計画審議会の開催にあたり、御挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、御多用のところ本審議会に御出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃から本県の都市計画行政の推進に御支援、御協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、国内では、地震や豪雨などによる被害が各地で発生しており、自然災害への備えの重要性が改めて認識されているところでございます。県では、防災・減災対策に継続的に取り組むとともに、都市計画の分野におきましても、持続可能で災害に強くしなやかな都市づくりの推進に市町とともに取り組んでまいりますので、委員の皆様には引き続き御協力のほどよろしくお願いいたします。

本日は審議事項として、「都市計画道路の変更について」及び建築基準法第 51 条ただし書きの規定による「産業廃棄物処理施設の敷地の位置について」の、計 3 件の審議を予定しております。

委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場から忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願い致します。

○事務局 本日の出席者でございますが、委員 20 名のうち 14 名に御出席いただいております。栃木県都市計画審議会条例第 5 条に定める定足数に達していることを御報告申し上げます。

議事の進行につきましては、大森会長よりよろしくお願いいたします。

○議長 会長を務めさせていただいております大森です。それでは早速議事を進めさせていただきます。

まず議事録署名委員ですが、10 番 橋本雅道委員、12 番 杉本孝委員を指名させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の案件としましては、次第にございますように、付議案件が 3 件、報告案件が 2 件でございます。

審議会は、栃木県都市計画審議会規程第 12 条の規定におきまして、「栃木県情報公開条例」第 7 条に定めております、個人の権利利益を害する恐れがある事項などを審議する場合や、公開することにより公正かつ円滑な議事運営に支障が生じると認められる

場合を除き、原則として公開となっております。

それでは、第1号議案「日光都市計画道路の変更について」を議題といたします。

この議案につきまして、幹事から御説明をお願いいたします。

○幹事（栃木県都市政策課長） 都市政策課長の本間でございます。

第1号議案「日光都市計画道路の変更について」御説明いたします。

議案書を御覧ください。

2ページの計画書を御覧ください。

本日、御審議いただく日光都市計画道路3・4・11号赤間々今中線と3・4・12号今中森友線について、変更後の各路線における起点、終点、主な経過地、延長、構造形式、車線の数、幅員、幹線街路との交差箇所数を記載しております。

なお、上段の3・4・11号赤間々今中線については、現在、県道の今市氏家線の一部として共用されております。変更内容についてはこの後、御説明いたします。

続きまして、3ページを御覧ください。こちらが位置図となります。

東西方向の赤線が3・4・11号赤間々今中線、南北方向の赤線が3・4・12号今中森友線を示しております。両路線とも今市市街地の東部における円滑な交通処理機能を担うとともに、都市の骨格を形成する重要な路線となっております。

それでは、変更の詳しい内容につきまして、御説明させていただきます。

別冊となる第190回栃木県都市計画審議会の参考資料を御用意ください。参考資料の1ページを御覧ください。カラーのA3版となります。

はじめに、左上の「位置図」を御覧ください。

赤線で表示している路線が、今回、変更する都市計画道路3・4・11号赤間々今中線と3・4・12号今中森友線です。沿線には、今市運動公園、今市中学校、古河電池、今市工業高校があり、南西に1kmほど離れたところに日光市役所、今市第三小学校があります。

このうち、今回変更するのは、青い点線で囲まれた区間となります。下段の「変更箇所詳細図」が、青い点線の枠内を拡大したものとなります。黄色が変更前、赤が変更後を示していますが、変更内容が微細なため、赤と黄色が重なって見えてしまう部分もありますが、御容赦ください。

まず、3・4・11号赤間々今中線ですが、延長は1,050m、起点と終点、車線数に変更はなく、右上の「横断図」にあるように、道路幅員を一部では16mから15m、交差点部では19mから18mに変更するものでございます。

また、図面右端、終点部の青い点線を囲んである交差点において、右折レーンを設けるなどの交差点改良も計画しております。

この影響により、交差します3・4・12号今中森友線の起点が南側に10m移動することになります。これにより3・4・12号今中森友線の延長を1,070mから

1, 060mに変更するものです。

それでは、道路幅員を変更する理由につきまして、御説明いたします。

先ほどの「位置図」で御説明しましたが、3・4・11号赤間々今中線の沿線には、今市中学校や今市工業高校、古河電池などがあり、通勤通学による自転車の通行が多い路線となっております。更に、今市第三小学校の通学路にも指定されており、現在は、2.5m程度の狭い歩道に自転車と歩行者が混在し、危険な状況となっております。今般、道路整備を行うにあたり、横断構成の見直しを行い、安全安心、快適に利用できる道路空間の構築を図るものです。

参考資料の2ページを御覧ください。

今回の道路幅員の変更案となります。上半分は一般部、下半分は交差点部の道路幅員について、それぞれの現在計画、変更計画案を対比して記載しております。

現在の計画では、幅3.5mの自転車歩行者道に自転車と歩行者が混在して通行することとなっております。これを歩行者は幅3mの歩道、自転車は幅1.5mの自転車通行帯へと分離することにより、歩行者、自転車それぞれの安全な通行空間を確保しようとするものであります。

一般部の全体幅員15mに対して、交差点部は18mとなっておりますが、これは交差点に付加車線、つまり右折レーンを設置することによるものです。これら道路設計にあたりましては、道路構造令に基づき設計したものであります。

なお、3・4・12号今中森友線については、道路幅員の変更はございません。

本変更案につきまして、令和7年8月5日から8月19日までの2週間、公衆の縦覧に供しましたが、意見書の提出はございませんでした。

また、本件につきましては、関係市である日光市に意見を聴取したところ、令和7年9月30日付けで異存のない旨の回答を得ております。

説明は以上となります。御審議の程、よろしくお願いいたします。

○議長 御説明ありがとうございました。それでは、ただいまの説明を踏まえまして、委員の皆様には御審議をお願いいたします。御質問、御意見がございましたら、お願いします。

○14番（小菅委員） 現計画よりも変更計画の道路幅員が狭くなることで、住民の反対や不満といった声は出ていないのかお尋ねします。

○幹事（栃木県都市政策課長） これまで令和5年、令和7年の合わせて2回の事業説明会、道路計画説明会を地元沿線の地権者を対象に実施してございます。出席率としましては約3割程度でございましたけれども、参加された皆様からの特別反対等の御意見はございませんでした。

また、欠席された方々に対しましては、事業説明会で使用した資料を郵送等で送付させていただきまして、事業に対する御理解を伺っているところでございます。

郵送した後、地元の方々から事業に対する反対等の御意見はないと伺っております。

○14番（小菅委員） ありがとうございます。

○議長 そのほかございますでしょうか。

○19番（野澤委員） 変更後の道路幅員が1m狭くなることで、道路と民地の間に両サイド50cmの土地が発生することによって、道路接道の問題と、余った土地の登記の問題について、どのように考えているのか教えてください。

○幹事（栃木県都市政策課） 当初の都市計画決定は道路幅員16mとされておりますけれども、この幅で道路用地の買収については、まだしてございません。

今後、新たな幅15mをベースに、現地の測量等を実施しまして、個人の方との道路境界を決めながら、実際の用地の買収面積をこれから確定していきます。

当然、現地での立会いと個別の交渉が出てきますので、沿線の方との調整につきましては、御協力をお願いできればと思っております。

○19番（野澤委員） わかりました。

○議長 そのほかございますでしょうか。御質問、御意見がございませんようですので、本案件につきましては、原案通り議決することに御異議はございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

御異議がございませんので、本案件については、原案通り議決いたします。

○議長 それでは、第2号議案「足利佐野都市計画道路の変更について」を議題といたします。この議案につきまして、幹事から御説明をお願いいたします。

○幹事（栃木県都市政策課） 第2号議案「足利佐野都市計画道路の変更について」御説明させていただきます。

計画書の5ページを御覧ください。

本日、御審議いただきますのは、足利佐野都市計画道路3・4・1号前橋水戸線について、先ほどの第1号議案同様、変更後の概要について記載されております。

なお、幅員は本路線の代表幅員である18mとなっております。この後の御説明とは若干異なりますが御了承ください。

変更内容については、この後御説明いたします。

6ページを御覧ください。位置図となります。

3・4・1号前橋水戸線の位置を赤い線で示しています。本路線につきましては、足利市と佐野市を東西に連絡する重要な幹線道路となっております。そして、主に県道桐生岩舟線として供用されております。

幅員については、路線の多くを占める市街地部では幅員18m、郊外部では幅員16mで都市計画決定されております。

それでは変更の詳しい内容について、御説明いたします。

別冊となる第190回栃木県都市計画審議会の参考資料の3ページを御覧ください。
こちらの資料も第1号議案と同様となっております。

はじめに左上の「位置図」を御覧ください。

赤線で表示している路線が、今回変更する3・4・1号前橋水戸線です。総延長は約25.7kmあり、その一部を抜粋したものです。このうち、今回変更するのは青い点線で囲まれた1.3kmの区間となります。この区間につきましては、16mで都市計画決定されております。

沿線には、佐野市立西中学校、東へ1km程離れたところには佐野市役所を御確認いただけるかと思えます。

下段の「変更箇所詳細図」が青い点線の枠内を拡大したものです。黄色が変更前、赤が変更後を示していますが、変更内容が微細なため赤と黄色が重なって見えてしまう部分もありますが御容赦ください。

主な変更内容は、右上の「横断図」にあるように、道路幅員を一般部では16mから15.5mに、交差点部では16mから18mに変更するものです。

それでは、道路幅員を変更する理由について御説明いたします。

今回の変更区間には、沿道に佐野市立西中学校があり、通学による自転車通行量が多い区間となっております。

更に、令和10年4月から、周辺の4つの小学校を統合し、新たに義務教育学校として開校することとなっております。これにより、通学児童の増加、歩行者の増加が見込まれております。

しかしながら、現状では、1mから1.5m程度の狭い歩道が部分的にあるだけで、通学路としての安全性は十分ではありません。

今般、道路整備を行うにあたり、横断構成の見直しを行い、安全安心かつ快適に利用できる道路空間の構築を図るものです。

参考資料の4ページを御覧ください。

今回の道路の幅員の変更案となります。上半分に一般部、下半分には交差点部について記載してあります。

現在の計画では、幅3.5mの自転車歩行者道に自転車と歩行者が混在して通行することとなっております。これを歩行者は幅3mの歩道、自転車は幅1.5mの自転車通行帯へと分離することにより、歩行者、自転車それぞれの安全な通行空間を確保しようとするものです。

なお、一般部の幅員15.5mに対して、交差点部は18mとなっておりますが、これは交差点に付加車線、つまり右折レーンを設置することによるものです。

これら道路設計にあたっては、道路構造令に基づき設計したものであります。

本変更案につきましては、令和7年9月5日から9月19日までの2週間、公衆の縦

覧に供しましたが、意見書の提出はございませんでした。

また、本件につきましては、関係市である佐野市に対して、意見を聴取したところ、令和7年10月6日付けで特に異存ない旨の回答を得ております。

説明は以上となります。御審議の程よろしくお願いいたします。

○議長 御説明ありがとうございました。ただいまの説明を踏まえまして、委員の皆様には審議をお願いいたします。御質問、御意見がございましたらお願いします。

御質問、御意見ないようですので、本案件につきましては、原案どおり議決することに御異議はございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

御異議ございませんので、本案件につきましては、原案どおり議決いたします。

○議長 それでは、第3号議案「宇都宮都市計画区域内に設置する産業廃棄物処理施設の敷地の位置について」を議題といたします。

この議案につきまして、幹事から御説明をお願いいたします。

○幹事（栃木県都市政策課） 第3号議案の詳細につきましては、特定行政庁の事務を所管しております栃木県県土整備部建築指導課長から御説明いたします。

○幹事（栃木県建築指導課） 建築指導課長の太森です。それでは、第3号議案について御説明いたします。

お手元の議案書7ページから9ページまでが第3号議案でございます。

議案書の第9ページの位置図を御覧ください。

本案件は、建築基準法第51条ただし書きの規定により、民間事業者が真岡市内の赤の区域に計画する産業廃棄物処理施設の敷地の位置が、都市計画上支障がないか御審議いただくものでございます。

参考資料の5ページを御覧ください。

まず、根拠となる建築基準法第51条ただし書きについてでございます。

建築基準法第51条の本文において、「都市計画区域内においては、卸売市場、火葬場又はと畜場、汚物処理場、ごみ焼却場その他政令で定める処理施設の用途に供する建築物は、都市計画においてその敷地の位置が決定しているものでなければ、新築し、又は増築してはならない。」とされております。

一方、「特定行政庁が都道府県都市計画審議会の議を経てその敷地の位置が都市計画上支障がないと認めて許可した場合又は政令で定める規模の範囲内において新築し、若しくは増築する場合においては、この限りではない。」とただし書きが規定されております。

次に、本案件が、この建築基準法第51条ただし書きの許可が必要である理由について御説明いたします。枠内を御覧ください。

まず、※1「位置の制限を受ける処理施設」でございますが、建築基準法施行令第130条の2の2第2号イの下線で示す「産業廃棄物の処理施設」の新築等で「廃棄物処理法施行令で定める規模」を超える場合に許可が必要となります。

廃プラスチック類の破碎施設、木くず又は瓦礫類の破碎施設につきましては、廃棄物処理法施行令第7条第7号、第8号の2に掲げられており、それぞれ一日の処理能力が5 tを超える場合が該当いたします。

また、※2「政令で定める規模の基準」として、当該許可に係る建築又は用途変更後の処理能力が1.5倍以内までの変更は許可が不要となっております。

本施設は、平成19年に建築基準法第51条ただし書きの許可を受けておりますが、今回、破碎処理する廃棄物の追加と処理能力の引き上げのための機械の入替え、設備の入替えに伴い、処理能力が前回の許可時の1.5倍を超え、また、許可対象となる廃棄物の処理を新たに追加することから、改めて許可が必要となるものでございます。

次に、位置及び施設概要について御説明いたします。

4ページの左側の「1位置図」を御覧ください。

当該地の位置を赤矢印で示しております。

場所は、北関東自動車道真岡インターチェンジから南へ約1 kmの真岡市長田地内に位置しており、用途地域の指定がない市街化調整区域となっております。学校、病院、社会福祉施設の位置については、青の丸と四角で示しており、施設周辺にはございません。最も近い民家でも処理施設から約100 m離れております。また、当該地は、土砂災害警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域、浸水想定区域に指定されていないことから、災害発生の可能性があまり高くない地域でございます。

当該地への主な搬入搬出経路でございますが、県道真岡上三川線から市道4050号線を経由し、搬入搬出することとしております。

県道真岡上三川線につきましては、近隣小学校の通学路となっておりますが、通学路の区間には歩道が整備されており、安全上の支障はありません。

また、市道4050号線につきましては、通学路の指定はありません。

次に、右側の「2施設の概要」を御覧ください。

本施設は、平成19年に建築基準法第51条ただし書きの許可を取得し、中間処理施設として産業廃棄物である廃プラスチック類の破碎処理のほか、廃プラスチック類を含む8品目の産業廃棄物の圧縮処理を行っております。

今回、圧縮処理の効率化を図るため、新たに破碎処理する産業廃棄物として、木くずや瓦礫類等の7品目を追加するとともに、破碎機を更新し、廃プラスチック類の破碎処理施設の処理能力を52 tから177.81 tの約3.4倍に引き上げるものであります。圧縮処理と破碎処理を行う廃棄物の品目を同一のものとすることにより、現在、圧縮処理しかできなかった廃棄物についても破碎処理を可能とし、圧縮工程に破碎処理を

加えることによる、更なる廃棄物の減容化が図られ、搬出時の運搬効率性の向上が期待できます。

なお、搬出された廃棄物については、セメント原料や熱源利用の再生利用等を行う計画となっております。

「3施設配置図」を御覧ください。

処理施設の配置でございますが、敷地は赤の実線で示した範囲であり、灰色で示した既存建築物をそのまま利用し、赤色で示した破砕機を入れ替える計画であります。破砕処理施設棟で廃棄物を破砕処理した後、圧縮施設棟に廃棄物を移動し、圧縮処理による廃棄物の減量化を行った上で、搬出する計画となっております。

周辺地域の生活環境に及ぼす影響についてですが、騒音及び振動等に関する「生活環境影響調査」を実施しており、評価を行っております。評価の結果、いずれも基準等を下回っていることから、周辺地域の生活環境への影響は特に問題はないと考えております。

また、前面の市道4050号線の幅員は、本施設の新設時に道路幅員を6.5mに拡幅しており、運搬車両の通行に支障はありません。

以上のことから、本施設の敷地の位置については、「都市計画上支障がないもの」と考えております。第3号議案の御説明は以上でございます。御審議の程よろしくお願いいたします。

○議長 御説明ありがとうございました。ただいまの説明を踏まえまして、委員の皆様には審議をお願いいたします。御質問、御意見がございましたらお願いします。

○18番（木村委員） 参考資料6ページの「3施設配置図」に記載されている道路幅員について、搬入車両の出入口部分までが6.5mに拡幅されていますが、その先の道路については拡幅する計画はないのですか。

○幹事（栃木県建築指導課） 「3施設配置図」に搬入経路が記載してございます。搬入車両は出入口部分までを通行し、その先の道路を通行しないことから、出入口部分までを拡幅しております。

また、当該施設の奥には住宅や一般利用があるような施設がないことと、今回、敷地の形状等の変更はないために、現道のまま利用する既存施設の再利用となっております。

○18番（木村委員） 前面道路は市道となりますが、敷地に接する部分については、拡幅するべきかと思います。

○幹事（栃木県建築指導課） 事業者と市の方にはその旨お伝えしていきたいと思っております。

○議長 ほかには御意見、御質問はございますでしょうか。

御質問、御意見がないようですので、本案件につきましては、原案どおり議決することに御異議はございませんか。

（「異議なし」の声あり）

御異議ございませんので、本案件につきましては、都市計画上支障ない旨、知事に答申いたします。

○議長 続きまして報告事項に移ります。

報告第1号「次期都市計画区域マスタープランについて」、事務局から報告をお願いします。

○事務局（都市政策課技術総括） 報告第1号「次期都市計画区域マスタープランについて」御説明いたします。

お手元の「報告資料」の1ページをお開きください。

7月15日から7月29日にかけて、都市計画法第16条に基づき、次期マスタープランの構想の縦覧を行いました。

縦覧の結果としましては、下の表に示すとおり縦覧者が13名であり、その内1件の意見申出書の提出がございました。

意見申出書についてですが、対象は矢板都市計画区域マスタープランであり、その内容は、矢板市内の特定の都市計画道路への意見でした。この意見については、マスタープランに対する意見ではないことから、本プランへの反映は行わないものと致しました。

なお、意見申出書の内容とその対応については、専門委員会の各委員から異存のない旨を回答いただいているとともに、当該都市計画道路の事業主体である矢板市にも内容を共有しております。

また、意見申出書の提出はありましたが、公述希望がなかったことから、公聴会は中止とさせていただきます。

では、次の説明に移ります。

今回、お手元には参考資料として、次期都市計画マスタープランを全区域分、配布しておりますので、現行のマスタープランからの主な変更点等について御説明いたします。

2ページを御覧ください。

変更点の1つ目は、マスタープランを一部合冊としております。

合冊の対象となる都市計画区域は「宇都宮都市計画区域と栗野都市計画区域」、「小山栃木都市計画区域と西方都市計画区域」になります。合冊とした鹿沼市と栃木市では、市町村合併により、線引き都市計画区域と非線引き都市計画区域の2つの都市計画区域が存在します。

右下の図を御覧ください。

旧栗野町及び旧西方町が緑色の非線引き区域としてそれぞれの市に存在しております。

今回、合冊とした理由としましては、国の統計調査等において、旧市町村ごとの結果がないため、旧栗野町は鹿沼市、旧西方町は栃木市としての都市の現状分析と課題抽出

を行っております。

また、鹿沼市と旧栗野町、栃木市と旧西方町において、都市づくりの基本的な方向性に相違がないこともあり、鹿沼市及び栃木市と協議を重ねた結果、今回、区域マスタープランを合冊することとしました。

なお、あくまでも合冊ですので、マスタープランの記載内容については、左下の図で示すとおり、宇都宮都市計画区域と栗野都市計画区域を分けて記載し、共通する事項については、共通事項としてまとめて記載するという形にしております。

続いて3ページを御覧ください。

変更点の2つ目は、新たに「公共交通軸」を設定しております。

今回、「公共交通軸」を設定した背景といたしましては、近年の人口減少に伴う、公共交通の利用者の減少や運転手不足により、公共交通サービスの維持・充実が課題となっている中、持続可能な公共交通サービスの構築を図るため、令和6年3月に「栃木県地域公共交通計画」が策定され、その中で「公共交通軸」が位置付けられたところです。

まちづくりにおいても、土地利用と公共交通が両輪となって機能する必要性があり、都市ビジョンにおいても、「土地利用と公共交通の連携強化」を掲げていることから、マスタープランに「公共交通軸」を新たに設定したところでございます。

今回設定した、「公共交通軸」については、鉄軌道や路線バスを基準に、拠点間のつながりを確保する公共交通ネットワークを公共交通軸として設定しております。

4ページを御覧ください。

次期マスタープランの策定にあたり、県や市町における各種施策の反映を行っております。

例えば、県の施策であれば、広域道路網の検討や奥日光地域への新モビリティ検討、「文化と知」の創造拠点整備などを新たに記載しております。

市町の施策についても、市町との協議を行い、LRTの宇都宮駅西側延伸を始め、スマートICの整備検討、新庁舎整備、新産業団地の整備や市街地再開発等の都市計画事業について、新たに記載しております。

また、新制度の活用として、「地域未来投資促進法」に関する記載を追加しております。

次の5ページから8ページにかけて、市町ごとに反映した内容をまとめておりますので、後ほど、御確認をお願いいたします。

それでは、9ページを御覧ください。

今後のスケジュールについて、御説明いたします。

一番右側の事務手続きの欄を御覧ください。9月上旬から当該マスタープランについて、国との事前協議を実施しているところでございます。この協議が終わりましたら、都市計画法第17条に基づきまして、本プランの案の縦覧を11月21日から予定して

おります。

その後、来年1月中旬に第10回専門委員会を開催し、次回の第191回都市計画審議会にて、本マスタープランについて御審議いただく予定です。

次回、1月の都市計画審議会では、お手元にある各マスタープランの内容について、御審議いただくこととなりますが、資料が膨大であるため事前にお配りさせていただいております。

ここからは、マスタープランの構成とその内容について、御説明させていただきます。
10ページを御覧ください。

こちらの表は、マスタープランの構成と内容を記載しております。

一番右側の欄については、参考として、宇都宮都市計画区域マスタープランでの当該ページを記載しておりますので、御参考にしてください。

まず、構成の1では、「都市計画の目標」を記載しております。

1-1の「目標年次」については、令和2年の基礎調査を基準年とし、20年後の令和22年を展望しながら、10年度の令和12年を目標年次としております。

1-2では「都市計画区域の現状及び課題」を整理しております。国勢調査や都市計画基礎調査を基に、人口・産業・土地利用・交通などの状況や各都市のつながりや役割を分析しております。その上で、持続可能な都市の形成を図るため、拠点づくりと公共交通を含めた交通ネットワークの充実・強化、自然災害や環境問題への対応、そして、各地域における魅力の活用を課題として整理しております。

1-3では「都市づくりの基本理念」として、先ほどの課題に対応していくための基本的な方向性として、「(1)誰もが暮らしやすい集約型の都市」「(2)誰もが安全でスムーズに移動できる都市」「(3)災害に強くてしなやかな都市」「(4)環境にやさしい脱炭素型の都市」「(5)地域の魅力や強みを活かした都市」この5つを柱として設定しております。

1-4「将来都市構造」では、都市ビジョンで掲げた、目指すべき都市構造「とちぎのスマート+コンパクトシティ2.0」の実現に向け、「地域の規模や役割に応じた拠点の形成」と「それら拠点間をつなぐ各種ネットワークの構築」を将来市街地像図として示しております。

ここで、改めて「拠点」と「各種ネットワーク」について、御説明いたします。

ページが飛びますが、13ページを御覧ください。

本県が目指す「コンパクト・プラス・ネットワーク」では、居住系の拠点を、拠点の規模や役割に応じて、【広域拠点・地域拠点・生活拠点】の3つの階層に分けております。また、居住系の拠点のほかに「産業拠点や観光レクリエーション拠点」を配置し、これらを公共交通や道路の交通ネットワークで繋ぐことで、互いに都市機能を補完し合い、効率的な都市経営を行うことが可能となり、持続可能な都市の形成を図ることがで

きます。

なお、各拠点の概要につきましては、14ページにまとめておりますので、後ほど、御確認ください。

15ページにあるA3の資料を御覧ください。

先ほど御説明させていただいた「コンパクト・プラス・ネットワーク」について、宇都宮都市計画区域の「将来市街地像図」でございます。点線で丸く囲っているものが、拠点を表しております。「赤が広域拠点」、「オレンジが地域拠点」、「黄色が生活拠点」となっております。その他、「水色が産業拠点」、「ピンクが観光・レクリエーション拠点」を設定しております。そして、これら拠点間をつなぐ、道路ネットワークを実線で示しており、これも【広域道路軸、都市間道路軸、都市内道路軸】と階層を分けて設定しております。

16ページを御覧ください。

こちらでは、今回、新たに設定した「公共交通軸」を加えた「将来市街地像図」になります。公共交通軸は、県内外の主要都市のほか、各拠点や周辺都市とのつながりを確保する公共交通ネットワークを公共交通軸として設定しており、青色で示す「鉄軌道」と緑色で示す路線バスなどの「それ以外の公共交通」の2つに分けて設定しております。

ページが戻りますが、11ページを御覧ください。

次に構成2として「区域区分の有無及びその方針」になります。こちらは、市街化区域及び市街化調整区域の設定、いわゆる「線引き」の必要性についての検討内容が記載されております。本県では、線引き都市計画区域として、「宇都宮・足利佐野・小山栃木」の3区域を設定しており、その他の区域は「非線引き区域」となります。また、線引き区域である、「宇都宮・足利佐野・小山栃木」においては、「区域区分の方針」として、市街化区域の規模を記載しております。

構成3の「主要な都市計画の決定方針」では、3-1で「土地利用」、3-2で「都市施設」、3-3で「市街地開発事業」、3-4で「自然環境の整備・保全」、3-5で「都市防災」について、それぞれ記載しております。特に、3-2の「都市施設」と3-3の「市街地開発事業」では、目標年次である令和12年までに整備する個々の事業について記載しております。

12ページを御覧ください。

最後に、構成4の「都市づくりの実現に向けて」では、1-4で示した「将来都市構造」の実現を図るため、都市計画区域ごとの「主な取組」について記載しております。

4-1では、都市づくりを進めるにあたり横断的に取り組む基本姿勢を3つ掲げております。

4-2では、1-3で示した「都市づくりの基本理念」に沿った、主な取組について記載しております。

以上が区域マスタープランの構成とその内容になります。

このマスタープランに即して、市町がより具体的な「市町村マスタープラン」や「立地適正化計画」を策定することとなります。

今回、県内17区域全てのマスタープランを用意させていただいておりますので、御時間のあるときに御確認いただき、御意見等がございましたら、事務局までお知らせいただけると幸いです。

報告第1号につきましては、以上となります。

○議長 ありがとうございます。御報告ということですので、事前に送付しました資料を御確認ください。

○議長 続きまして、第2号「市町村の都市計画決定について」、事務局から御報告をお願いいたします。

○事務局（都市政策課技術総括） 報告第2号「市町村の都市計画決定について」御報告をいたします。

前回の当審議会で報告させていただいた案件以後、令和7年7月17日から令和7年10月21日までの約3ヶ月の間に、県内の市町が都市計画決定した案件について、報告するものでございます。

報告第2号の1ページを御覧ください。

こちらの表は、市町ごとに都市計画決定の件数を計画種別ごとに集計したものでございます。

表の一番下にある計の欄に記載のとおり、土地利用に関するものが1件、都市計画決定がされております。

なお、それぞれの概要につきまして2ページに、位置図につきましては3ページに添付しておりますので、後ほど御覧いただければと思います。

報告第2号につきましては、以上となります。

○議長 ありがとうございます。報告ということですので、事前に送付しました資料の御確認をよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、本日の議事を終了いたします。委員の皆様には御審議いただきありがとうございます。

それでは事務局にお返しします。

○事務局 会長をはじめ委員の皆様には、長時間にわたり御審議いただきありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、本日の審議회를閉会いたします。

本日はありがとうございました。

午後2時40分 閉会